

愛媛縣ニ於ケルひがんばなノ異稱一覽、並ニ二三ノ異稱ノ命名意識ニ對スル臆測

# ○愛媛縣ニ於ケルひがんばなノ異稱一覽、並ニ二三ノ異稱ノ命名意識ニ對スル臆測

伊豫周桑郡壬生川町 杉山正世

頃日私ノ編輯セル『いよのことば』第一輯（昭和六年十一月十日印刷）ニ登載シタ「愛媛縣ニ於けるひがんばなの異稱」ノ中ニ在ル下ノ二項ヲ此植物研究雜誌編輯者ノ希望ニ任セ茲ニ掲グル事ニシタ、本植物ヲ研究セラル、御方ノ御參考ニナレバ幸甚デアル

## ○愛媛縣ニ於ケルひがんばなノ異稱一覽

○ハ周桑郡ニアルモノ

×ハ周桑郡外ニアルモノ

○×ハ周桑郡ニモアリ周桑郡外ニモアルモノ

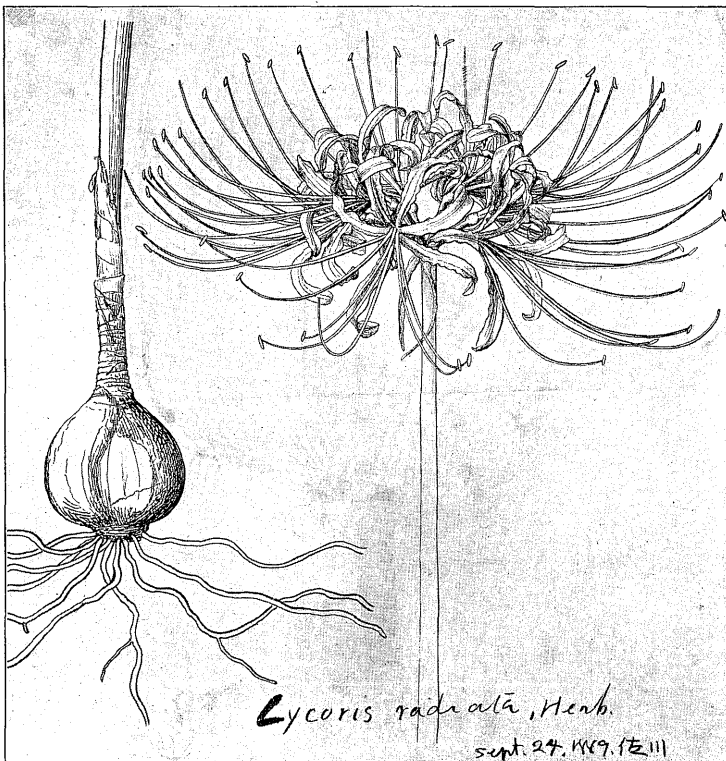
- 1 えんこばな
- 2 あいらんばな
- 3 おちんぼんばらこ
- 4 ひがんばな
- 5 ありばな
- 6 あればな
- 7 ×かぶればな
- 8 かぶれのはな
- 9 かみさんばな
- 10 きちさち

- 11 きちさちばな
- 12 きちさちぼし
- 13 きちさちぼし
- 14 げどばな
- 15 じんこ
- 16 じんこばな
- 17 じゃやばな
- 18 しゅーとんばな
- 19 しゅーとんばら
- 20 じゅじゅばな

- 21 じゅずばな
- 22 じょじょばな
- 23 じょろばな
- 24 ずずばな
- 25 ずずばな
- 26 そーしきばな
- 27 そーれんばな
- 28 ちよーちんばな
- 29 ちよーちんばら
- 30 ちんちろばな

- 31 ちんちろりん
- 32 ちんちろりん
- 33 どくしゅばな
- 34 どくばな
- 35 どくほーせんこ
- 36 ねこばな
- 37 ぱちちらこ
- 38 ぱちちらこ
- 39 ぱちばちばな
- 40 ひがんばな

愛媛縣ニ於ケルひがんなノ異稱一覽並ニ二三ノ異稱ノ命名意識ニ對スル臆測



ひがんな (Lycoris radiata HERB.)

(明治廿二年九月廿四日郷里土佐佐川町ニテ寫生セシ牧野富太郎原圖、縮小)

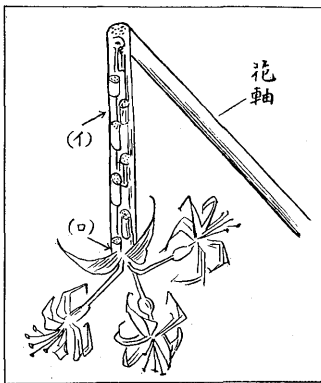
(編輯者挿入)

- 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41
- ゆゝれんばな ×まんじゅしゃげ まんじゅさき ほんばな ほんせんこばな ほんときさんばな ほんではな ほんぜばな ほんぜのはな ×ほぜ ほんぜばな ほんぜのはな ×ほせんばな ほんせんこばな ほんせんこ ほんせんくわばな ほんせんばら ほんせん ほんせん ほんせん ×ひぜん ほんせん ×ひぜん
- 60  
りりんこばな

愛媛縣ニ於ケルひがんばなノ異稱一覽並ニ二三ノ異稱ノ命名意識ニ對スル臆測

## 〇二三ノ異稱ノ命名意識ニ對スル臆測

じゅずばな、おりはな、ちよーちんばなノ稱呼ハドコニ緣由ヲ持ツモノカ、アマリハツキリハ推定シ得ナイガ  
ちよーちんばなノ稱ハ次圖ニ示シテアルヤウナ童戲カラ生レタモノデアラシイ點ヲ思ヒ合セルトじゅずばな  
ノ稱ハツノちよーちんノ製作過程デ副次的ニ作り出サレタ圖中ノ(イ)部分ガ珠數ト見立テラレタモノデアアル  
マイカ、コノ花ノ咲キ出デル時ガ陰曆デ孟蘭盆頃カラノ年モアツテノ故カぼんばな(廣島縣比婆郡庄原町デハ  
ぼんばな——益本淺夫氏)ト呼バレ又秋ノ彼岸前後ニハ藪カゲトイハズ流ノホトリトイハズコノ花ノ紅デ彩ラ  
レルタメデアラウひがんばなト呼バレ或ハそーれんばな(葬式ノコトヲ當地ニテそーれんとイフ)、ほときさん  
ばなナドト佛事ニ聯想ノ綾ガカケラレルコトガ多クちよーちんばなノちよーちんトイフ見立テモ葬儀用ノ飾提  
灯ニカ、ハリガアリサウニ思フ時コノ部分ガ珠數ト想定サレルコトモアナガチアリ得ヌコトデアアルマイ(徳  
田村古田デハ圖ノヤウニ拵ヘタ提灯ヲ持ツテ「あちよーちん ぼんばらこ あかどーえ まいりましよ」ト唄ヒ



作り方

(ロ)ノ部分サ一センチ程二  
ツニ裂キ次ニ一方ニハ花軸  
ノ髓ヲ、他方ニハ表皮ヲ交  
互ニ一センチ位ツ、殘シヤ  
ウニシテ裂キ七—八センチ  
位ニ至ツテ終ル

ナガラ遊ブト) ありばなトイフノモツマリハ(イ)部  
分ヲ折ルカラニ依ルモノデアラウ  
タ、氣ニナルノハ 24 すずばな(宇摩郡天満村)ガ  
ずずばなノハタシテ清音化デアルカ否カラ決定スル  
資料ヲ持チ合サナイコトデアアル、シカシずずばな系  
統ノ稱呼ガ今私ノ手元ニアル資料ニアツテ周桑郡カ  
ラ東ヘ伸ビテ香川縣ノ豊濱町ニマデ及ンデ居ルノデ  
多分ノ危險ヲ思ヒナガラモコノずずばなモ今ハじゅ  
ずばなノ系統中ニ含マセテオク

## どくばな

ノ稱呼ヲ考ヘルニアタリ私ハ「日本百科大辭典」ノ次ノ記事ヲ引用シタイ

此草の鱗莖は有毒にして、リコリン(Lycorin)と稱するアルカロイドを含有す、これを食へば吐瀉することあり。故に漢方醫はこれを吐劑に代用せしことあり。されど荒歲には賤民これをよく水飛し、「くず」(葛)の根より澱粉を取ると同法によりて澱粉を探り、團子等として食用に供す。然れども其製法粗なれば毒分を存し、害を受けることあり、又九州にても、凶年に窮民此外皮を去り、搗き碎き、これを席箱の中に入れ、水を汲み入れ水、席より洩れ出で減ずれば又水を汲み入れ、かくすること數日にして毒分を去り、これを固めて鍋にて燒き食ふ、味稍々佳なりと云ふ。

試ニ當地二三ノ老人ニ尋ネテミタトコロ「アナ、エグイモンガ食ベラレマスカイ、花ヲ折ツタテ、ヨイ、ヨクサインジャケン、ソヤケンドアノ球ヲ水デサラシテソレヲ粉ニシタモンヲ米ニマゼテ食ベタラ食ベラレルサウナガサアドウジャロウカ」ト誰モガ云フノデアツタ、併シコレダケノ事實デモサウシタコトヲ知ツテキルモノガマダ當地方ニモ殘ツテキルコトノ證トハナラフ

トモカクモどくばなノ稱ハ周桑郡内ニカナリアマネク行ハレテキル、ケレドモソノ全部ガ所謂「毒」ヲ意識シテキルモノト見ルヨリモげどばなト呼ブ地方モアルヤウニコノ花ノ中ニ見ルカラノ毒々シサヲ他ニシテ清楚トカ優艶ナドトモイハレルヤウナ心ヲヒカレルヤウナ氣品ヲ見出スコトガデキナイノデ「げどされ(馬鹿奴)」コなんげどガ(コノ馬鹿ガ)「ノヤウナ氣持デ」げどばな(14)」ト呼ンダモノデアラウガソレト同ジヤウナ氣分デどくばなト罵リ捨テタノデアラウ

## えんこばな

ハカノえんこ(河童)ヲ思ヒ合セテキハスマイカ、えんこニ對シテ抱クヤウナ警戒ト畏怖、ソレハ人ノホトリデ見返ル人ヲ待テ顔ニ陽ニ映エテ咲イテキルコノ花ニ見出サレル不安サトシテアマリニ突飛デアルト一概ニ云ヒ棄テモナルマイ

愛媛縣ニ於ケルひがんばノ異稱一覽並ニ二三ノ異稱ノ命名意識ニ對スル臆測

カウシタ考ヘ方デ行クトマダ充分ニ安心ハ得テキナイノダガねこばな(36)モ眞赤ニ人目ヲ射テキルコノ花ガサテ庭ニ植エルニシテモ床ノ花瓶ニ挿スニシテモ思ヒツキニクイタハセモノデアルトコロコウヲヘタ老猫ヲ想ヒ出サセテキル點、又ゆゝれんばな(59)モゆゝれん(幽靈)ト呼ブトコロ共ニコノどくばなノ一系ニ含マセテイ、モノカトモ思フノデアル

ほぜばな ノ一系ハカナリ興味ノアル稱呼デアル、私ハマダ實際ニ試ミテハキナイガ知友渡邊盛義氏ノ語ルトコロニヨレバコノ植物ノ球根ヲツブシタ折ニ出ル液汁ニ觸レルトカノ里芋ヤ山芋ノ粘液ニ觸レタ時ノヤウナカユサヲ覺エルトノコトデアル

コ、デ考ヘ合サレルコトハ灸ヲ施シタツノ痕ガカタマリ始メタ頃ノ刺スヤウナカユサヲ里人ハほぜるトイフ言葉デ言ヒ表ハシテキルコトデアル、カクテ前記ノカユサカラコノカユサガ比較サレテほぜのはなノ稱呼ヲ生ジ順次ニほぜばな、ほぜノ一系ガデキタト考ヘルコトモデキハセヌカト思フノデアル(ほぜるトイフ動詞ガほぜのはなノほぜノヤウナ名詞形ニ變ルニハソノ移動ヲ想ハセル他ノ實例ヲ二三發見セネバ安心シテコノ兩語ヲ因果ヅケラレナイワケデアアルガ今ノ私ハマダソノ資料ヲ持タナイ)(當地ニほぜくらしい、やまほぜト云フ語ガアル何レモ山人ヲ罵リ嘲ツテ云フノデアアルガ前者ニハ此ノ草ノ球根ヲ食用ニシタトイフコトノ名残ヲシイモノガ感じラレル、無論山人ハ玉蜀黍ヲ常食又ハ代用食ニスルトイフコトハ信ジテキテモコノ草ヲ食ツテキルトイフ事實ガアルトカ、アツタトカ信ジテカク云フノデハナイカ)

コノ想像ヲ推シ進メルトキひぜん、ひぜんばなハソノ土地ノ人々ニ尋ネテモミナイガ疥癬ニ縁ガアラウカト思ハレル即チ前ニ記シタヤウナ事情デ覺エル執拗ナカユサカラ疥癬ノカユサヲ聯想シテひぜんばなト呼ビひぜんト更ニ短縮サレタモノデアラウ、マタかぶれのはな、かぶればなノかぶれモ前記ノヤウナ事情デカブレ、ルガ故ニ呼バレルモノカト思フ

【牧野曰フ】私ハ土佐國高岡郡佐川町ノ生レデスガ此私ノ郷里デハひがんな即チまんじゆしやげノコトヲシ  
 ーれート呼ビマス或ハしれート縮メテ云フコトモアツタカト思ヒマス是レハ死靈カラ來タ名デハナイカト想  
 像セラレマス此草ハ能ク墓場ナドヘモ生エテキルカラ其ンナ名ガアルデショ、又同國高岡郡仁井田村、同  
 幡多郡山田村、同吾川郡名野川村デハ共ニほぜト稱スル、土佐ノ國デハ明治年間頃處ニヨリ其球根ヲ農家デ  
 食用ニシテキマシタガ今日デモ僻阪ノ山間デハ尙其風ガ存シキルト思ヒマス、私が私ノ國カラ出タ彼ノ蜜  
 柑ノ専門家デアアル田村利親君カラ曾テ聽イタニハ同君ノ郷里長岡郡新改村ノ或ル一農家デハ家ガ頗ル貧シイ  
 ノデ頻リト此球根ヲ堀リ來ツテ年々之レヲ食シ爲メニ大ニ米麥ヲ食ヒ延ベタト云フ事デアツタ、又明治十何  
 年ト云フ頃私ハ高岡郡鳥形山ニ植物ノ採集ニ行ツタ事ガアツタガ其山下ノ長者村宇泉デ一農家ノ傍ラノ水ノ  
 落チキル處ニ其球根ヲ搗キ碎イテ布ノ袋ニ容レ晒シテアツタ事ヲ見受ケタ事ガアツタ

小野蘭山ノ『本草綱目啓蒙』ニハひがんな即チ石蒜ニ就テ澤山ナ諸國ノ方言ガ列記シテアルカラ今參考ノ  
 爲メ下ニ之レヲ抜キ書キシテ見ヨウ、ツシテまんじゆしやげノ語原等ニ就テ同書ニハ「翻譯名義集ニ曼珠砂  
 ク」ト出テキル、今右書所載ノ方言ヲ五十音ノ順ニ列記スレバ左ノ通りデアル

イチヤニヨロリ 豫州令治

イットキバナ 防州

ウシノニンニク 江州

ウシモメラ 石州

ウシオビ 濃州

オホスガナ 熊野

オホキキ 能野

カラスノマクラ

カハカンジ 駿州

キツネノイモ 京下久世

キツネバナ 備前

キツネノタイマツ 越前

キツネノシリヌグヒ 越前

キツネノヨメゴ 肥前

キツネノアフギ 濃州

クハエンサウ 仙臺

ケナシイモ

サンマイバナ 勢州

シビトバナ 京

シタカリバナ 勢州松坂

シタマ加里 江州

シタコジケ

和州

シビレバナ 播州赤穂

ジユズバナ 豫州

愛媛縣ニ於ケルひがんなノ異稱一覽、並ニ二三ノ異稱ノ命名意識ニ對スル臆混

紀州ニ生エタぐんばいひるがほ

ステゴノハナ 筑前  
デゴクバナ  
テアキバナ 丹州笹山  
ハミズハナミズ 加州  
ヘソビ 勢州彌見 凶年ニハ團子トシ  
マシジュサケ 熊野  
ヤクベウバナ 越前  
ユウレイバナ 上總  
ワスレグサ 仙臺  
セウゼウバナ 仙臺  
テクサリグサ 播州  
ハヌケグサ 豊後  
フヂバカマ 播州三ヶ月  
マンジュシヤケ 京  
ホソビ 勢州  
ヒガングサ 仙臺  
ノダイマツ 能州  
ヒガンバナ 肥前  
ホドヅラ 豫州松山  
スズカケ 土州  
テクサリバナ 龍州  
ヒガンバナ 肥前  
フヂバカマ 播州三ヶ月  
マンジュシヤケ 京  
ステゴグサ 筑前  
テンガイバナ 京  
ドクスマラ 肥前  
ヒガングサ 仙臺  
スズカケ 土州  
テクサリバナ 龍州  
ノダイマツ 能州  
ヒガンバナ 肥前  
ホドヅラ 豫州松山  
ユウレイバナ 上總  
ワスレグサ 仙臺  
セウゼウバナ 仙臺  
テクサリグサ 播州  
ハヌケグサ 豊後  
フヂバカマ 播州三ヶ月  
マンジュシヤケ 京

能ク此時代ニ是レ丈ケノ澤山ナ方言ヲバ集メ得タモノダト感心スルガ然レバ蘭山先生ガドウシテ其レヲ集メ  
タカト云フニ多分京都本草ヲ講述シタ時分ニ諸國カラ雲集シタ及門ノ弟子達ニ聽タモノガ多々デアッタト  
想像セラル、此『本草綱目啓蒙』ト云フ書物ハ蘭山先生ノ蘊蓄ヲ傾倒シテ講述シタ筆記ヲ修補シテ出來タ  
良書デ我邦ノ植物ヲ研究スル人士ノ座右ニ無クテハナラヌ文獻デアアル、從來出版セラレタモノニ四種類アッ  
テ其始メノ二ツハ其題簽ハ共ニ單ニ『本草綱目啓蒙』デアアルガ是レハ二ツトモ著者ノ小野家デ發行シタモノ  
デ其内容モ體裁モ兩方トモ全ク同一デアアル、第三ノモノハ『重修本草綱目啓蒙』デ是レハ木活字ヲ用キテ印  
刷シ重修者ノ意見ガ書中ニ「増」トシテ散見シテキル特色ガアル、第四ハ『重訂本草綱目啓蒙』デ一番能ク  
整フタ書デ又一番最後ニ世ニ出タモノデアアル、今日デハ此等ノ書ノ時價ガ騰貴シ購フニ誠ニ不便デアアルガ然  
シ幸ニモ東京府北豊島郡長崎町一六二番地ノ日本古典全集刊行會デ此重訂ノ方ヲ全部縮刷シテ賣リ出シタノ  
デ極メテ僅カノ價デ購求スル事が出來ルヤウニナリ研究者ハ非常ナ助カリデアアル

# ○紀州ニ生エタぐんばいひるがほ

和歌山縣新宮高等女學校

太田馬太郎